



日本の伝統工芸技術「木目金」を使って作られたフルート初の管体。金と銀の響きの要素が併存……

●問い合わせ……株式会社World Frontier 電話：072-320-1566

同社のラインナップには他に管体14Kレッドゴールド、特別な配合の銀を使った管体ノーブルシルバー、管体925シルバーがある（いずれもキイは925シルバー）。独自の完全ピンレスメカニズムを開発し、ゴールド以外はすべて巻き管で作るなど、管体以外の細部にもこだわって製作している。

製作するのはオランダで金属加工技術を専門に学び、後にパウエルなどで腕を磨いて帰国、1990年に独立したハリー・ヴァン・エカート（代表）と妻のシリア・ヴァン・ウフェレンの二人。モクメウム・メタルは09年の全米フルートコンベンションで発表した。

個性が一枚の板に並んで存在することで、金の持つ深みのあるフルサウンドと銀の特徴であるクリアで温かい音色を一本のフルートで実現することが出来ました」と解説する。



●金銀細工職人を目指して勉強し後にフルート作りに転じた代表のハリー・ヴァン・エカート氏。

昨年の日本フルートコンベンションin滋賀で日本で初めて展示され、話題を呼んだフルート。カラー写真でお見せ出来ないのが残念だが、左の楽器はシルバーを基調とした中に、うっすらと金色の波模様が見え、美しく浮き出ている。「モクメウム」メタルと名付けられた特殊な合金で作られた。開発したのはオランダのハンドメイドフルート工房「エロイ・フルート（ELOY FLUTES）」。

着したものを高温で熱して共付け（溶接）し、一枚の板にする。それをヤスリで削ったりドリルで穴を開けたりしながら叩き、引き延ばしていくと、異種の金属の層が不思議な模様を成して表面に現れてくる。

一般には指輪や貴金属のアクセサリに使用されて模様が珍重されるが、フルートでは通常の合金とは異なる種類の素材から来る新しい音を得られるのがミソだ。エロイ・フルートでは、925シルバー75%と、14Kレッドゴールド、もしくは14Kパラジウムホワイトゴールド25%の2種類の組み合わせで作って



●上が925シルバーに14Kレッドゴールド、下が925シルバーに14Kパラジウムホワイトゴールドの「モクメウム」管体。模様は一本一本異なる。



●ゴールド管体以外は巻き管で作り、トーンホールはすべてソルダー。

いる。エロイ・フルートの日本輸入元（株）World Frontierの担当者には、「金と銀が混ぜ物の合金としてではなく、それぞれの